

特集

全国自治体が取り組むガラスびん適合物量の今！

自治体と住民1人当たりの、分別基準適合物引渡量が減少のなか、「その他の色」びんの全体に占める割合が増加傾向にあります。

「びんtoびん」の品質向上の視点から、「無色」・「茶色」びんの適合物量アップが求められています。

自治体ごとの住民1人当たりの分別基準適合物引渡量は、ギャップが大きい。

当協議会では、環境省の「容器包装リサイクル法に基づく市区町村の分別収集等の実績」の、ガラスびんの実績を整理・加工し、ウェブサイトで公開しています。平成29年度の全国自治体による分別基準適合物引渡額(以下、適合物量)の合計は、702,737トンで、前年度より2.4%の減少。住民1人当たりの年間適合物量は5.50kgで、2.3%減少しています。

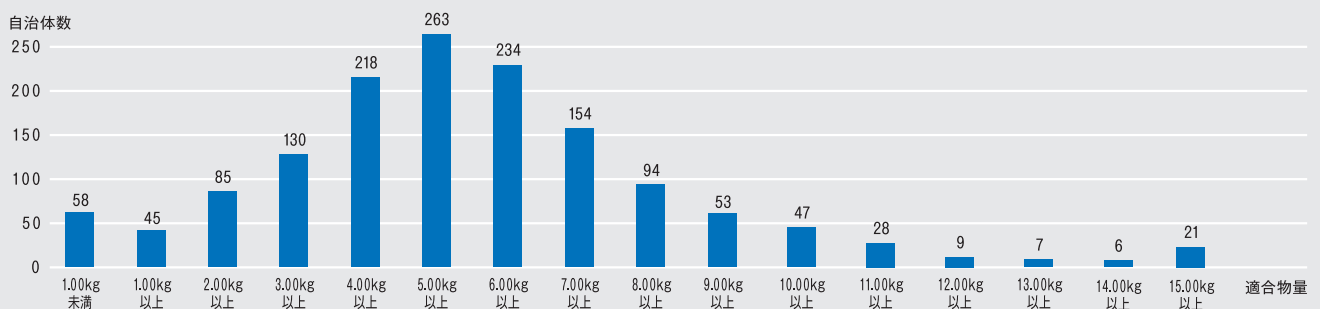
自治体(市区町村)ごとの1人当たりの適合物量の分布は、下のグラフの通りで、4kg台から7kg台の自治体で半数以上を占めています。15kg以上の自治体が21ある一方、1kg未満の自治体も58あり、自治体によって1人当たりの適合物量に大きなギャップがあることがわかります。ちなみに、1人当たりの適合物量の最も多い自治体は静岡県熱海市の19.79kg、都道府県別では、東京都の8.07kgとなっています。

「その他の色」びんの適合物量の割合が増加傾向にある中、「無色」・「茶色」びんの適合物量アップを。

全国の住民1人当たりの年間適合物量は、「ガラスびん全体」で5.50kg。色別で見ると、「無色」が最も多く2.22kg(ガラスびん全体の40.3% 以下同じ)、「茶色」が1.78kg(32.3%)、「その他の色」が1.51kg(27.4%)となっており、直近3年間の「その他の色」の割合は、毎年増加しています。このような状況は、国内出荷量における「その他の色」の割合の増加とともに「その他の色」が多い輸入びんによる影響も考えられます。

「その他の色」の構成比が高い自治体は、「その他の色」の収集量の割合が高いこともありますが、色選別の際に「無色」や「茶色」のびんの混入も考えられます。「びん to びん」リサイクルを推進するために、「無色」と「茶色」の適合物量を増やす取り組みが求められ、当協議会としても「その他の色」の割合が高い自治体を訪問し実態調査を行い、改善点があれば提案を行っています。

■自治体ごとの1人当たりの年間ガラスびん適合物量(平成29年度)



ガラスびんのリサイクル 平成30年度 全国自治体調査結果報告

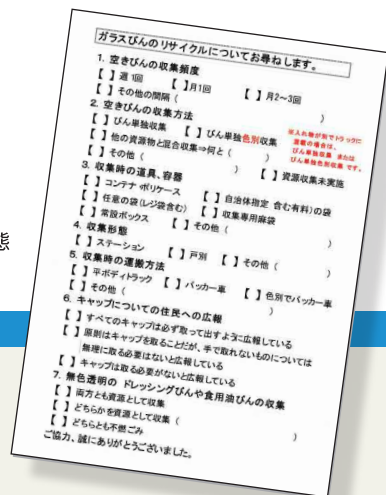


ガラスびんのリサイクルにおけるアンケートを実施して
全国1,741自治体に送付し、1,215自治体から回答がありました。

回答率：自治体数で69.8%（昨年は、1,191自治体 68.4%）

人口比では、86.7%（昨年は、79.7%）

【アンケート実施項目】 ●空きびんの収集頻度 ●空きびんの収集方法 ●空きびんの収集容器 ●空きびんの収集形態 ●収集時の運搬方法 ●キャップについての住民への広報 ●無色透明ドレッシング・食用油びんの収集



ガラスびんの収集方法と再資源化量は、 密接に関係していることが再認識できます。

当協議会が全国自治体向けに行った、ガラスびんのリサイクルアンケートのなかでは、特にガラスびんの収集方法・収集容器・運搬方法等に注目してみました。

収集方法……グラフ1参照

びん単独収集は関東地方が60%（全国平均値38%）を占め、びん単独・色別収集が多いのは、東海・北陸地方が51%（全国平均値24%）となっています。また、他の資源物（PETボトルや缶）との混合収集が多いのは、近畿地方と九州・沖縄地方です。

収集容器……グラフ2参照

コンテナ・ポリケースが多いのは、東海・北陸地方では80%を超えており（全国平均値約45%）、次に関東地方が約50%。袋（自治体指定・任意）が多いのは、北海道・東北、近畿、中国・四国、九州・沖縄地方で、それぞれ過半数を占めています。

運搬方法……グラフ3参照

平ボディトラックが多いのは、東海・北陸の78.6%（全国平均値

58.3%）はじめ、北海道・東北、関東、中国・四国地方。

また、パッカー車が多いのは、近畿、九州・沖縄地方で60%前後（全国平均値35%）となっています。

無色ドレッシングびん・食用油びんの収集方法……グラフ4参照

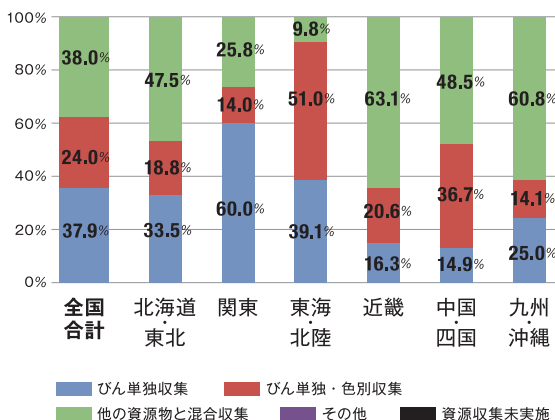
「両方とも資源化を行っている（中が汚れていないとの条件付き）」自治体が多数を占めており、その中でも割合が高いのは、東海・北陸地方、近畿地方。また、片方だけを資源化している場合は、ほとんどがドレッシングとの回答を得ました。

再資源化アップのためには、

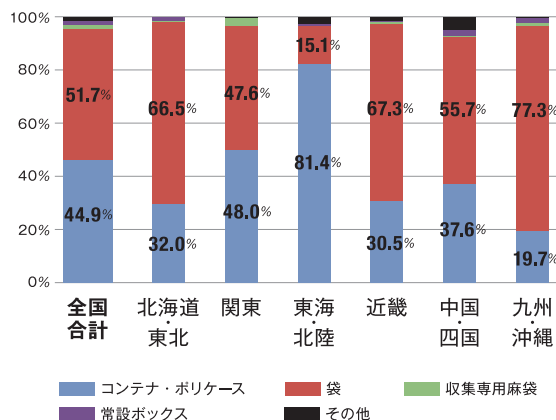
いかにガラスびんを割らないで収集するかがポイント。

具体的な方策としては、びん単独（色別）、コンテナ・ポリケース、平ボディ車を推奨していますが、今回紹介する北海道平取町外2町衛生施設組合の好事例のように、袋収集でもびんを割らないようにしているところもあります。

1 ガラスびん排出・収集方法について



2 ガラスびん排出・収集容器について



自治体の取り組み事例

北海道 平取町外2町衛生施設組合 (平取町、日高町、むかわ町)

●1人当たりの平均ガラスびん資源化量：8.76kg

北海道 平取町、日高町、むかわ町の概要（平成30年1月現在）
●人口：合計 25,874人 ●世帯数：合計 13,221世帯
●面積：2,446.56km²
●ステーション数：1,402カ所
●分別基準適合物引渡量（平成29年度）合計 226,660kg

自治会独自のステーション設置・管理と連携しながら回収方法を工夫。
地域のキレイを支える情熱が、業務の効率化と高品質を生み出しています。

平取町外2町衛生施設組合では3町（平取町、日高町、むかわ町）において、容器包装リサイクル法の実施に伴い平成12年4月から混合収集（ガラスびん＋ペットボトル）を開始。また、現在のリサイクルセンターが平成22年7月より稼働し本格的に分別資源化を行っています。

エリア内のステーションは、住民の希望をもとに自治会によって設置され、管理も行っています。また、回収拠点である看板があるステーションは町に申請し、回収を把握している場所で、一部、個人の管理責任において置かれたものも回収するケースがあります。

3種類ある資源ごみ区分のうち、びんについては資源A（ペットと段ボール、新聞、雑誌などと同一回収）の位置づけです。こちらの取り組みとして、業務オペレーションをリアルタイムで管理して、回収時から処理工程まで、一つ一つが工夫されていることです。ステーション収集時は、ガラスびん専用指定袋の導入による分別徹底と他容器との仕分け省力化を。平ボディ車で収集では、金網ケースに袋を丁寧に積み込んで、びんの破損を防止しています。このような工夫が、一括袋収集方式としては十分な残渣軽減対策も行われ、全体として高水準な品質が保たれています。



空きびん専用の収集指定袋



ステーションボックス
(黄色い看板が貼られ申請登録されたもの)



金網カゴ使用で輸送時の破損軽減と効率化



手選別コンベアで丁寧に色別仕分けされる

▶1頁にある適合物量の人口1人当たりの量を、アンケートの区分のように集計すると、東が高く西が低い、東高西低となっています。

(kg/人)

人口1人当たり	北海道・東北 6.54	関東 6.23	東海・北陸 5.43	近畿 4.32	中国・四国 5.05	九州・沖縄 4.61
---------	----------------	------------	---------------	------------	---------------	---------------

また、全国政令指定都市で比較すると1人当たりの量が多い都市は、「びん単独（色別）」、「コンテナ・ポリケース」、「平ボディ

トラック収集」で、逆に量が少ない都市は、「他の資源物と混合」、「袋」、「バッカー車収集」となっており、下位の5都市はいずれも近畿地方および九州地方の都市となっています。

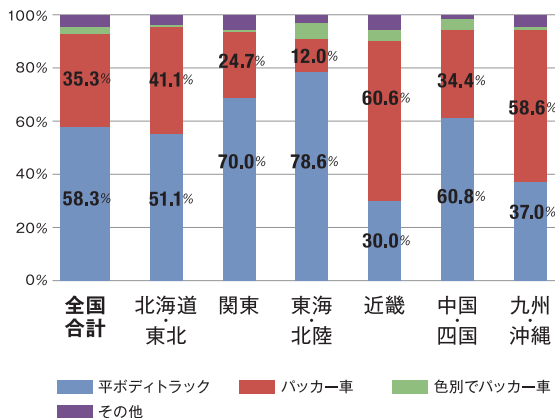
(kg/人)

上位都市	新潟市 7.68	仙台市 7.53	川崎市 6.89	千葉市 6.63	名古屋市 6.22
下位都市	京都市 2.48	福岡市 2.66	北九州市 2.75	神戸市 3.00	大阪市 3.47

以上の分析をふまえると、ガラスびんの収集・運搬方法は、適合物量と密接に関係しているように思われます。

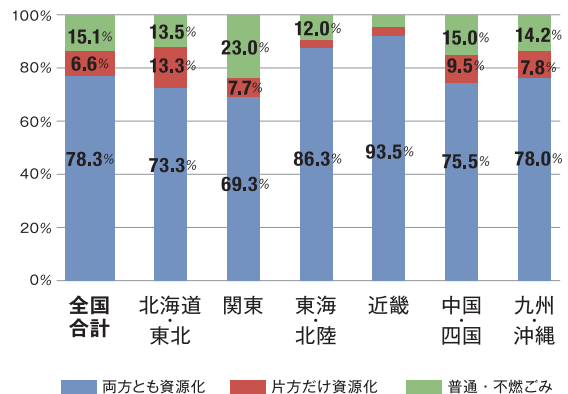
3

ガラスびん収集・運搬方法について



4

無色ドレッシングびん・食用油びんの収集について





第23回通常総会を開催。事業報告・収支報告ならびに事業計画・収支予算が承認されました。

去る6月21日(金)、日本ガラス工業センターの会議室において、ガラスびん3R促進協議会の第23回通常総会を開催



しました。当日は会員会社の代表が出席し、平成30年度事業報告(案)・収支報告(案)、役員変更、2019年度事業計画(案)・収支予算(案)について審議され、いずれも承認されました。また、新会長に石塚久継(石塚硝子株式会社 代表取締役社長執行役員)、新副会長に長谷川雅之(第一硝子株式会社 代表取締役社長)が就任しました。

■2019年度事業計画■

1. Reduce対策

①ガラスびん軽量化事例の情報収集と効果的な広報 ②「自主行動計画2020(第三次自主行動計画)」の目標に向けたガラスびんの軽量化実績のフォロー

2. Reuse対策

①地域や市場特性に合わせたガラスびんリユースシステムの持続性の確保 ②「リターナブルびんポータルサイト」の鮮度維持と全国各地域での取り組みほか情報発信強化 ③「びんリユース推進全国協議会」での十分な合意形成によるびんリユースの推進 ④関係他団体と連携したガラスびんリユース推進に向けた課題整理と対応策の検討・実行

3. Recycle対策

①「自主行動計画2020(第三次自主行動計画)」目標(リサイクル率70%以上)に向けたガラスびんリサイクルの実態把握と対策の検討・実行 ②分別基準適合物引渡量拡大に向けた自治体への個別アプローチ展開と情報発信 ③その他用途事例の情報収集、その他用途業者との定期情報交換とWebサイトを通じた情報発信 ④カレット品質向上に向けた啓発情報の継続的な発信 ⑤資源有効利用促進法における特定再利用業種としての目標更新への対応

4. 広報対策

①「びんの3R通信」と「Webサイト」による情報発信強化 ②次世代に向けたガラスびん3Rの普及啓発 ③エコプロ2019を始めとしたイベントにおける「ガラスびんの3R」に関する直接広報活動の実施 ④ポスターやリーフレット、ムービーやWebサイトなど様々な媒体による消費者視点でのPR・啓発の実施 ⑤日本ガラスびん協会との連携による「ガラスびんの特性と魅力」の訴求と合わせた消費者向けガラスびん3Rのアピール実践



「自主行動計画2020」取り組みとガラスびんの特性と魅力を訴求し、3Rを推進してまいります。

ガラスびん3R促進協議会 会長 石塚 久継

この度、第23回通常総会(6月21日開催)において、会長に就任いたしました石塚でございます。就任にあたりましてひと言ご挨拶申し上げます。

6月に開催されたG20では、海洋プラスチックごみ問題が主要議題として議論され、これに先立ち、政府は「プラスチック資源循環戦略」を策定しました。

ガラスびんは、その特性により唯一リユースでき、自然環境への汚染を起しにくい容器であります。再利用可能容器への代替により、海洋プラスチックごみ問題の解決ならびにプラスチック資源循環に資することになると存じます。

当協議会では、通常総会で承認されました事業計画に則り、資源循環の促進ならびに環境負荷の低減に向けたガラスびんの3Rについて「自主行動計画2020」を自治体とのさらなる連携を図りながら進めるとともに、「ガラスびんの特性と魅力」を訴求してまいります。

今後も、会員各社の皆様のご協力を得ながら、各課題に精力的に取り組んでいく所存でございます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

昨年12月に開催された「エコプロ2018」に出展 ガラスびんの3Rをテーマに展示を行い、クイズを実施。

昨年12月6日(木)~8日(土)東京ビッグサイトで「エコプロ2018」が開催されました。3日間の来場者数(主催事務局発表)は162,217人で当協議会ブースも多数の来場があり、ガラスびんの3Rをテーマに展示やクイズを実施したほか、ガラスびんの魅力等について紹介しました。さらにガチャガチャタイムを設け、ガラスびんに入れた景品を差し上げました。



新宿リサイクル活動センターにおいて開催された「第19回こどもまつり」に出展参加。

3月3日(土)、新宿区高田馬場にある新宿リサイクル活動センターにおいて開催された「こどもまつり」に出展参加。テーマに沿った催しとともに当協議会ブースでは、ガラスびんの3Rについてクイズや冊子を使用する啓発を実施。クイズに回答した方には、ノベルティーを差し上げました。

